

松井平和首長会議会長（広島市長）スピーチ

第10回NPT再検討会議において、被爆地広島と平和首長会議を代表して私たちの期待や懸念を表明する機会を得られたことに、感謝申し上げます。

初めに、生涯にわたり勇気をもって核兵器廃絶のために尽力された被爆者、坪井直氏に敬意を表したいと思います。

1945年の原爆投下による犠牲者を悼み、また被爆者の筆舌に尽くしがたい苦難に思いを寄せて、全ての締約国に対して、今後誰一人として同じ悲劇に見舞われることのないよう、一層努力を重ねるよう訴えます。被爆者の「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という深い信念を、私たちは決して忘れてはなりません。

残念ながら、現下の国際情勢は被爆者の長年の切実な訴えとは真逆の状況です。民主主義と専制主義の対立が続き、国家間の覇権争いの様相を呈しています。これが核軍拡競争へとつながり、多くの生命を危険に晒しています。

本来、自国民の安全に対して重責を担っている為政者が、このような行為に及ぶことで、自国民のみならず、人類の存続までも危機的状況に陥れています。私たちは、この危険な状況を憂慮しており、看過することはできません。

これらを踏まえ、全ての参加国政府に対し、全ての締約国が尊重するこの条約の崇高な共通基盤を更に拡大するよう訴えます。また、彼らが相違点を乗り越えて真剣に対話し、具体的な核軍縮・不拡散措置を確実に進展させるよう要請します。併せて、核兵器禁止条約とNPTは完全に互換性があり、相互に補完し合うものであると認識することを奨励します。

全ての参加国政府に対し、被爆者の苦悩を和らげ、核兵器がもたらす重大な脅威を排除するための具体的な対応を盛り込んだ最終文書を採択できるよう期待しています。